



一般社団法人 日本建設機械施工協会 東北支部 支部たより

とらへく

Summer 2026

Vol.191



部会報告

令和8年度 東北支部第15回通常総会開催

建設技術公開「EE東北'26」開催報告

「令和8年度 最上川下流・赤川総合水防演習」に
参加して

東北地方整備局との災害協定の改定について

TEC-FORCEパートナーの活動について

国土交通省東北地方整備局より

ICTサポーター感謝状を授与されました

ゆきみらい2026 in大館

除雪機械展示・実演会 開催報告

国土交通省コーナー

阿武隈川上流遊水地水門ゲート設備工事概要
～阿武隈川緊急治水対策プロジェクト～

安全コーナー

労働安全衛生法及び作業環境測定法改正について

目 次

巻頭言 「生まれ変わりつつある仙台」	東北支部 副支部長 早川 直人	1
令和8年度 東北支部第15回通常総会開催		2
建設技術公開「E E 東北'26」開催報告	東北支部 施工部会顧問 宮田 優	6
「令和8年度 最上川下流・赤川総合水防演習」に参加して	技術部会長 福田 智之	8
東北地方整備局との災害協定の改定について		10
TEC-FORCEパートナーの活動について		11
国土交通省東北地方整備局より ICTサポーター感謝状を授与されました		11
ゆきみらい2026 in大館 除雪機械展示・実演会 開催報告	広報部会 土肥 孝俊	12
国土交通省コーナー 阿武隈川上流遊水地水門ゲート設備工事概要 ～阿武隈川緊急治水対策プロジェクト～	東北地方整備局 福島河川国道事務所 施設管理課	18
安全コーナー 労働安全衛生法及び作業環境測定法改正について	建設部会 菅原 一将	22
支部行事・会員情報		24

【表紙写真】



開会式風景



釜段工法



排水ポンプ訓練



シート張工法

「最上川下流・赤川総合水防演習」

東北6県持ち回りで開催される総合水防演習は、2018年開催の「最上川中流総合水防演習」から、8年ぶりの山形県開催でした。

出水期の万が一の水害に備え、タイムラインに基づく実践的な訓練実施により、知識と防災意識を高める緊迫感のある東北最大級の総合水防演習が行われました。

主 催：最上川下流・赤川流域5市町

（酒田市、鶴岡市、三川町、庄内町、遊佐町）、
山形県、東北地方整備局

写真提供：東北地方整備局 酒田河川国道事務所

「生まれ変わりつつある仙台」



東北支部 副支部長 早川 直人
(株式会社IHIインフラスクエア 東北支店支店長)

会員の皆様、187号の巻頭言以来の登場となります。4月1日付けでIHIインフラスクエアに社名が変わりましたのでよろしくお願いいたします。

令和6年4月に仙台に戻り2年程経ちましたが、最近仙台の街中を歩いているとオフィスビルの建替工事と同時に街中のビルがあちこちで大幅にリニューアルされているのが目に付くようになりました。ひょっとしたら、仙台の街中は大きく生まれ変わろうとしている転換期を迎えているのではないかと思います、色々調べてみました。

仙台市は復興需要が一段落し、被災を免れた市内建築物のうち、30年以上経過した建物は60%となり、旧耐震基準法（昭和56年）のオフィスビルは40%と老朽化が進んでいく中、仙台市が支店経済都市として1位であり続けるために、老朽建築物の建替と企業立地を促進するため、令和12年度をゴールとして「仙台都心部建替促進助成金制度」を創設したようです。

この制度にはいくつかメリットがあるようです。

1. 解体工事期間中の土地固定資産税相当分を助成
2. オフィス床面積相当分の固定資産税相当分を助成
3. 容積率の緩和
4. 駐車場台数設置義務台数の緩和

これら制度がどれ程の起爆剤になっているか、正確な数値は分かりませんが、ゲートメーカーの私でも仙台市内あちこちで目に付く位ですから、かなりのメリットがあるものと思われます。

建替にも様々なパターンがあるようで、ホテル→マンション、オフィスビル→マンションになるケースもあるようです。二日町の旧東北地整庁舎は高層マンション（プラウドタワー仙台晩翠通）に生まれ変わり、以前の姿を知っている私にはその変貌ぶりに驚きを隠せません。

大規模再開発という所では、旧ダイエーが入っていた読売イオンビルは令和11年に新しいビルに生まれ変わるようです。ただ仙台駅前の旧さくら野ビルは解体工事がスタートするものの、次の開発は白紙状態であり、旧エデン跡地も駐車場になるなど苦戦を強いられている状況も見え隠れしています。

アップデートされる仙台中心街が更に魅力を増して発信し続けることで、奥さんや子供を連れて仙台に転勤してきたファミリー層が転勤の仮住まいでなく、仙台に家を買って定住する流れに勢いをつけるため、例えば休日近隣の観光スポットとしてダムを観光資源として活用促進（観光放流・鯉のぼりの展示）など、協会としてイベントなどを後押しできればいいのかなと感じております。

一時期「ダム建設＝税金の無駄遣い」「公共事業悪」的なアゲインストの風潮がありましたが、協会含む関係者の発信努力によりフォローの風が吹くようになってきました。観光資源としてのダムを知った人たちがダム本来の役割を理解してもらう仕組み作りを、私も協会活動を通じて微力ながら尽力できればと思っております。

令和 8 年度 東北支部第15回通常総会開催



一般社団法人日本建設機械施工協会東北支部の第15回通常総会は、令和8年5月25日(月)14時30分からパレスへいあんにおいて開催されました。

出席者は高橋弘支部長ほか合計95名が出席。本部から岩見吉輝業務執行理事、来賓として、(一社)宮城県建設業協会会長代理技術顧問菅原敬二氏をお迎えしました。

また、宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館館長平川新氏を講師に招き、講演を実施しました。

総会は、山尾昭企画部会長の司会で進められ、高橋弘支部長及び岩見吉輝本部業務執行理事の挨拶のあと審議に入り、第1号議案から第5号議案まですべて承認されました。

日 時 令和8年5月25日(月) 14:30～
場 所 パレスへいあん
(仙台市青葉区本町1-2-2)

議決権総数 165社
出席者数 73社
委任状数 74社
有効数 147社

1. あいさつ



東北支部長
高橋 弘 氏



本部業務執行理事
岩見 吉輝 氏

2. 議長選出

支部規程第16条に基づき、高橋弘支部長が議長を務めることとし、議事が進められた。



議長 高橋支部長 選出

3. 総会成立宣言

本総会への出席団体会員数は、支部会員165社のうち、147社（うち出席者73社、委任状74社）の出席で、支部会員数過半数を超える出席数に達し、支部規程第17条に基づいて、本総会が成立することについて事務局長から報告があり、議長が総会成立宣言を行なった。

4. 書記の選出

議長は次の方々を議事録署名人に指名。

議事録署名人

(株)荏原製作所東北支社

東北支社長 藤澤 稔 氏

(株)ダイワ技術サービス

常務取締役 経営企画本部長 佐々木 茂 氏

5. 議案審議

第1号議案

令和7年度事業報告書承認に関する件

第2号議案

令和7年度事業決算書承認に関する件

第3号議案

令和8・9年度役員の改選について

第1号・2号の議案について、事務局から説明があり、承認可決された。

3号議案の役員の改選については、役員名簿（案）の説明があり、異議なく承認された。その後、運営委員会が開催され、役員の互選により、新支部長および副支部長が選出された。



支部長 東北大学名誉教授 高橋 弘 氏
副支部長

鹿島建設(株)

執行役員東北支店長 横井 隆幸 氏
(株)IHIインフラスクエア

東北支店長 早川 直人 氏

第4号議案

令和8年度事業計画書に関する件

第5号議案

令和8年度事業予算書に関する件

第4号・5号議案について、事務局から説明があり、承認可決された。

6. 議事終了宣言

第5号議案審議終了後、質問、意見、提案の無いことを確認し、議長が総会議事審議の終了宣言を行った。

7. 表彰式

本部長の感謝状を授与される永年会員の方々と東北支部長から表彰状を授与される方々の表彰式と、記念撮影を行った。

【本部長感謝状について】

(1) 永年会員表彰

永年支部団体会員として事業の推進に尽力され、建設機械・建設施工の発展に貢献した次の各団体会員に本部長の感謝状が岩見吉輝本部長業務執行理事から伝達授与された。

会員期間60年

コマツ福島(株)

以上1社

会員期間50年

東北グレーダー(株)

日本ロード・メンテナンス(株)仙台営業所

升川建設(株)

以上3社



会員期間40年

範多機械(株) 特販部

(株)丸島アクアシステム 東北支店

置賜建設(株)

コマツ秋田(株)

コマツ岩手(株)

コマツ山形(株)

昭和建機(株)

以上7社



会員期間20年

(株)興和 東北支店

以上1社



(2) 永年役員表彰

永年支部役員を務めて協会の事業推進に尽力され、建設機械・建設施工の発展に貢献された次の方々に本部長の感謝状が岩見吉輝本部長業務執行理事から伝達授与された。(敬称略)

斗沢 力 日立建機日本(株) 東北支社

吉越 一郎 (株)安藤・間 東北支店 以上2名



【東北支部長表彰について】

支部表彰規程に基づく支部会員からの推薦と、表彰者選考委員会の推薦により受賞が決定された次の方々に、高橋弘支部長から表彰状と記念品が授与された。

(1) 建設機械化功労者

永年支部役員を務めて協会の事業推進に尽力され、建設の機械化の発展に貢献された次の方に表彰状が授与された。(敬称略)

山尾 昭 (株)I H I インフラスクエア

以上 1 名



永年建設機械化の推進の創意工夫に尽力され、建設事業の発展に貢献された次の方に表彰状が授与された。(敬称略)

及川 栄喜 日建工業(株)

以上 1 名



(2) 優良建設機械運転員

勤続15年以上建設機械の運転業務に従事し、職務成績が優秀で他の模範となる次の方々に表彰状と記念品が授与された。(敬称略)

工藤 正人 大管工業(株)

與儀 優 (株)佐藤工務店

斉藤 和敏 日本道路(株) 東北支店

加藤 晃 (株)新庄砕石工業所

上野 泰之 北日本機械(株)

石岡 優人 富士建設(株)

佐藤 貞彦 日建工業(株)

以上 7 名



(3) 優良建設機械整備員

勤続15年以上建設機械の整備業務に従事し、職務成績が優秀で他の模範となる次の方々に表彰状と記念品が授与された。

加藤 誠 西尾レントオール(株) 東北営業部

工藤 晴彦 住友建機販売(株) 東北支社

中村 誠二 日立建機日本(株) 東北支社

玉虫 真 コマツ山形(株) 以上 4 名



8. 特別講演

表彰の後、宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館館長 平川新氏より、「災害が人類史をつくってきた ―災害と文明―」について特別講演をいただきました。



講演される平川氏

9. 資料

会議資料のほか、次の資料が配布された。

会員名簿 令和 8 年度

10. 出席者内訳

協会本部	1 名
会員会社	73 名
支部役員等	22 名
表彰者	22 名
講演者	1 名
事務局職員	5 名
合 計	124 名※一部重複 (実出席者 108 名)

11. 出席団体会員 73社

(順不同)

- ・旭イノベックス(株) 東北営業所
- ・飯田鉄工(株) 東北支店
- ・(株)荏原製作所 東北支社
- ・カナデビア(株) 東北支社
- ・北日本機械(株)
- ・佐藤鉄工(株) 仙台営業所
- ・(株)JAST
- ・(株)拓和 仙台支店
- ・(株)電業社機械製作所 東北支店
- ・東開工業(株)
- ・東京計器(株)
- ・(株)西島製作所 仙台支店
- ・新潟トランス(株) 東北営業所
- ・西田鉄工(株) 仙台支店
- ・(株)NICHIGO 東北営業所
- ・日東河川工業(株) 東北営業所
- ・日本自動機工(株) 東北支店
- ・(株)ノバライト
- ・範多機械(株) 特販部
- ・(株)日立インダストリアルプロダクツ 北部支店
- ・藤木鉄工(株)
- ・豊国工業(株) 東北支店
- ・(株)丸島アクアシステム 東北支店
- ・青木あすなろ建設(株) 東北支店
- ・(株)安藤・間東北支店
- ・(株)エス・ケイ・ディ 仙台支店
- ・置賜建設(株)
- ・鹿島建設(株) 東北支店
- ・(株)加藤建設 東北支店
- ・國井建設(株)
- ・(株)熊谷組 東北支店
- ・(株)興和 東北支店
- ・(株)佐藤工務店
- ・清水建設(株) 東北支店
- ・(株)新庄砕石工業所
- ・スバル興業(株) 東北支店
- ・大管工業(株)
- ・(株)大和エンジニアリング 仙台営業所
- ・(株)谷工機社
- ・(株)テクアノーツ
- ・寺嶋建設工業(株)
- ・東北グレーダー(株)
- ・西松建設(株) 北日本支社
- ・日本道路(株) 東北支店
- ・日本ロード・メンテナンス(株) 仙台営業所
- ・能美防災(株) 東北支社
- ・前田建設工業(株) 東北支店
- ・前田道路(株) 東北支店

- ・升川建設(株)
- ・万六建設(株)
- ・矢田工業(株)
- ・菱和建設(株)
- ・YCG福島(株)
- ・コマツ秋田(株)
- ・コマツ岩手(株)
- ・コマツカスタマーサポート(株) 東北カンパニー
- ・三洋テクニクス(株)
- ・昭和建機(株)
- ・住友建機販売(株) 東北統括部
- ・日本キャピラー (同)
- ・日立建機日本(株) 東北支社
- ・藤高自動車興業(株)
- ・(株)ダイワ技術サービス
- ・(株)ホツマブラント
- ・(株)アクティオ 東北支社
- ・(株)建測システムサポート
- ・西尾レントオール(株) 東北営業部
- ・(株)ほくとう
- ・ユナイト(株) 仙台営業所
- ・(株)レンタルのニッケン 北日本支社
- ・(株)セイトウ社
- ・福井コンピュータ(株) 北日本営業所
- ・(株)柏崎組

12. 委任状提出団体会員 74社

(順不同)

- ・(株)IIIインフラスクエア 東北支店
- ・岩崎工業(株)
- ・十文字鉄工(株)
- ・スカイボックス(株)
- ・ゼニヤ海洋サービス(株)
- ・(株)瀧神巧業
- ・(株)トプコンソキアポジショニング ジャパン仙台営業所
- ・(株)檜崎製作所 仙台営業所
- ・(株)ニコン・トリンプル
- ・古河産機システムズ(株) 東北支店
- ・前澤工業(株) 東北支店
- ・ライカジオシステムズ(株)
- ・EARTH CREATE(株)
- ・(株)浅間建設
- ・(株)英明工務店
- ・大森建設(株)
- ・小国開発(株)
- ・(株)小野工業所
- ・(株)小野良組
- ・(株)柿崎工務所
- ・(株)狩川佐藤組
- ・刈屋建設(株)
- ・(株)菊池組
- ・(株)後藤組
- ・佐藤技建(株)
- ・(株)佐藤組
- ・佐藤建設(株)
- ・三立道路(株)
- ・ショーボンド建設(株) 北日本支社
- ・(株)情野建設工業
- ・高吉建設(株)
- ・(株)高嶋組
- ・(株)塚本商会
- ・東亜道路工業(株) 東北支社
- ・東北化工建設(株)
- ・(株)島山土木工業
- ・(株)中館建設
- ・日建工業(株)
- ・(株)NIPPO 東北支店
- ・日本製紙石巻テクノ(株)
- ・日本ハウエィ・サービス(株) 仙台支店
- ・(有)弘前重機
- ・富士建設(株)
- ・(株)藤本建設
- ・本間建設(株)
- ・(株)松田組
- ・(有)源興業
- ・(株)三村興業社
- ・(株)宮部組
- ・山和建設(株)
- ・いすゞ自動車東北(株)
- ・(株)快適空間FC
- ・コベルコ建機日本(株) 東北支社
- ・コマツ福島(株)
- ・コマツ山形(株)
- ・(株)仙台銘板
- ・(株)那須自動車
- ・(株)草野測器社
- ・(株)シーティーエス
- ・(株)山形測器社
- ・青森リース(株)
- ・(株)イー・イー・エス
- ・(株)イマギイレ東北支店
- ・(株)ダイワテック
- ・福島建機(株)
- ・(株)ワイティ・クリエイション
- ・(株)渡敬
- ・川田テクノシステム(株) 仙台営業所
- ・(株)建設システム 仙台営業所
- ・(株)ジェノバ
- ・(株)ソーキ
- ・(株)テクノシステム
- ・(株)BREXA PCT
- ・会津土建(株)

建設技術公開「E E東北'26」開催報告

東北支部 施工部会顧問 宮田 優
(古河産機システムズ株式会社)

1. はじめに

令和8年6月3日(水)～4日(木)の2日間、建設技術公開「E E東北'26」が、仙台市宮城野区港地区にある「夢メッセみやぎ」において開催されました。

本稿では、会場の様子について報告します。

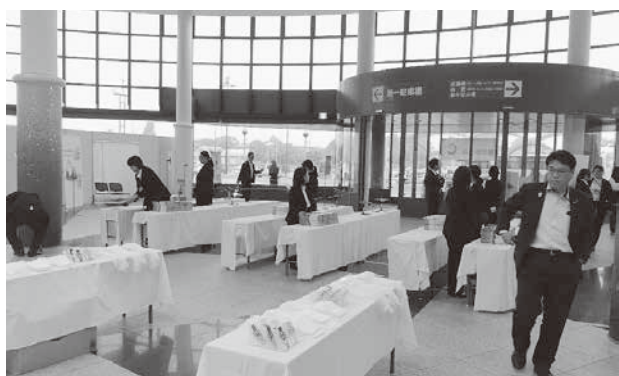


写真-1 入場者受付状況

2. 「E E東北'26」概要

今回のE E東北'26は、「広げよう新技術つなげよう未来へ」をテーマとして開催されました。

出展者数は386団体となり、過去最多の規模での開催となりました。また、出展技術数は966技術となり、建設分野における最新技術や製品が一堂に会しました。

展示技術は、「設計・施工」366技術、「維持管理・予防保全」340技術、「防災・安全」183技術、「その他」77技術の4つのカテゴリーに区分されました。

来場者数は6月3日が8,000人、6月4日が8,700人となり、2日間合計で16,700人が来場しました(いずれも速報値)。

なお、過去5か年の開催状況については表-1のとおりです。

表-1 出展者数・出展技術数・来場者数

開催年度	出展者数	出展技術数	来場者数
令和8年度(E E東北'26)	386社	966技術	16,700名
令和7年度(E E東北'25)	384社	952技術	18,300名
令和6年度(E E東北'24)	378社	958技術	17,100名
令和5年度(E E東北'23)	385社	1,035技術	13,900名
令和4年度(E E東北'22)	358社	1,040技術	12,200名

注) ※令和8年度来場者数は速報値

3. オープニングセレモニー

初日6月3日10時からの開会式は、本館展示棟コンコース西側において開催されました。

E E東北'26実行委員会構成団体を代表して西村拓東北地方整備局長が主催者挨拶を行った後、主催



写真-2 西村拓東北地方整備局長；挨拶

団体代表者らによるテープカットが行われ、E E東北'26の開幕を祝いました。

当日は台風の影響による大雨にもかかわらず、開場前から多くの来場者が訪れていました。開場時刻になると来場者が次々と入場し、入場待ちの列は約1時間にわたって続きました。



写真-3 テープカット

4. 基調講演

開会式終了後、本館会議棟大ホールにおいて基調講演が開催されました。

国土交通省大臣官房参事官（イノベーション）グループ 施工企画室最所敏明課長補佐により「国土交通省におけるインフラ分野のDXの取組について」と題し講演を行いました。

講演では、国土交通省におけるインフラ分野のDXの取組について説明が行われ、多くの聴講者が熱心に耳を傾けていました。



写真－4 最所敏明課長補佐；基調公演

5. 出展者、出展技術内容などの特徴

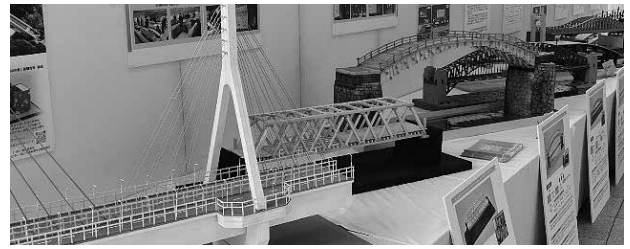
近年、建設業界では担い手不足への対応や生産性向上を目的として、ICT施工や建設DXの推進が進められています。また、高度経済成長期に整備された社会資本の老朽化が進行する中、維持管理・予防保全技術への関心も高まっています。

今回の展示会では、「設計・施工」「維持管理・予防保全」「防災・安全」「その他」の4つのカテゴリーに区分された966技術が展示されました。ドローンや3次元計測技術、AIを活用した点検技術、遠隔操作技術などには、多くの来場者が足を止めていました。

また、今回のEE東北'26では、初の試みとして特別企画展示が実施されました。建設機械シミュレーターや建設機械の遠隔操作、フィジカルAI、熱中症対策ソリューションなどのほか、工事の魅力写真展や教育アニメ映画「未来補完計画」、仕事猫による建設業PRを兼ねたスタンプラリーなども実施され、多くの来場者で賑わっていました。

さらに、学生&企業交流ひろば、技術パネル（ICT）展示、高校生「橋梁模型」作品発表会入賞作品展示、NETIS相談コーナーなどの特設コーナーも設けられ、技術普及や人材育成に向けた取組が行われました。

本館展示場内及び屋外展示場では、実機展示や体験型展示を行うブースも多数見られ、各ブースでは担当者や来場者による活発な意見交換が行われていました。



写真－5 「橋梁模型」作品発表会入賞作品展示



写真－6 建設機械シミュレーター

6. 新技術プレゼンテーション

新技術プレゼンテーションは、本館会議棟（Aホール・Bホール）において実施されました。

出展技術の中から選定された新技術について、2日間にわたりプレゼンテーションが行われ、多くの聴講者が来場しました。

各発表では、開発の背景や技術的特徴、活用事例、導入効果などについて説明が行われました。発表時間は限られていましたが、各技術の特徴や有用性が分かりやすく紹介されていました。

なお、質疑応答は会場では行わず、質問等は各出展者ブースで受け付ける運営となっていました。発表後には多くの来場者が関連ブースを訪れ、担当者から説明を受ける様子が見られました。

7. おわりに

EE東北'26は、台風の影響による悪天候の中での開催となりましたが、大きな事故もなく無事に終了することができました。これもひとえに、EE東北実行委員会構成団体並びに出展企業・団体及び関係者の皆様のご尽力、ご協力の賜物であり、心より敬意と感謝を申し上げます。

また、一般社団法人日本建設機械施工協会会員より、51団体・119技術の出展をいただき、本展示会の充実に寄与いただきました。ご出展いただいた会員の皆様をはじめ、関係各位のご支援、ご協力に対し、心より御礼申し上げます。

今後もEE東北が建設分野における新技術・新工法の普及と技術交流の場として、さらなる発展を遂げることを期待するとともに、本稿の結びといたします。

「令和8年度 最上川下流・赤川総合水防演習」に参加して

技術部会長 福田 智之
(西田鉄工株式会社 仙台支店)

令和8年5月31日(日)「最上川下流・赤川総合水防演習」が山形県酒田市下瀬地先の最上川下流の出羽大橋右岸河川敷で開催されました。

当協会から高橋支部長と技術部会長の私が参加して参りましたので、演習の内容を紹介します。

国土交通省では国民の生命と財産を水害から守るため、水防の重要性の普及を図り水防に対する理解を深めることを目的として出水期を前にした5月を「水防月間」と定めています。

東北地方においては各県の持ち回りで「水防演習」を開催して水防活動のPR・水防意識の高揚に努めており、山形県では平成30年以来8年ぶりの開催です。



演習参加者整列

今年度の水防演習は最上川・赤川流域5市町、山形県及び国土交通省東北地方整備局の主催で、当日は国土交通副大臣、山形県知事をはじめとした関係機関のご臨席の下、東北各地の水防団団員や各参加機関含めて総勢約1200名での演習が盛大且つ厳粛に開催されました。

今年度の総合水防演習のテーマは【洪水から地域を守る、一人一人の防災意識。】として次の構成で進められました。

【情報収集訓練・洪水対応訓練】

この演習では、集中豪雨による増水により災害対策本部が設置されるところから始まり、河川巡視、水位状況の提供及びリエゾン派遣、被災箇所発見／水防団出動、各水防工法訓練（シート張工、月の輪工、釜段工、積土のう工等）、小河川の水防活動、簡易水防訓練、避難所開設・要配慮者避難、ダムの特別防災操作などの訓練が行われました。



各種水防工法の演習

【国・県・市町村・関係機関の連携訓練】

この演習では豪雨により堤防が決壊した想定で、国・自治体・関係各機関の連携体制、対応を確実に行う訓練が行われました。

堤防越水の情報、氾濫情報の提供、自衛隊派遣要請、陸上自衛隊・山形県消防防災航空隊・酒田地区

広域行政組合消防本部、山形県警察本部、日本赤十字社山形県支部による救助・救護訓練が行われました。またドローンによる被災状況調査、応急復旧訓練、排水作業訓練、ライフライン復旧訓練、支援物資輸送訓練が行われました。



自衛隊、警察本部、消防本部の救助・救出訓練及び復旧状況



排水ポンプ車による排水作業訓練

【防災展・物産展・車両展示】

今年も会場内では防災知識を学ぶための防災展が開催され、参加機関による活動紹介、特殊車両や降雨体験装置などの展示コーナーが設けられました。



特殊車両の展示



物産展ほか各種展示コーナー

本演習を通して、各機関の災害時対応の姿勢や水防団の方々の水防技術への維持・向上に向けたひたむきな姿勢に感銘を受けました。山形県では令和元年、2年、4年、6年とほぼ2年に1度の間隔で水害に見舞われ過去の経験を教訓に、また何時来るか誰もが分からない災害に対して、日頃からの意識付け（何時・誰が・何を行う）を行って災害に備える重要性を参加された方々と共に改めて認識できた一日となりました。

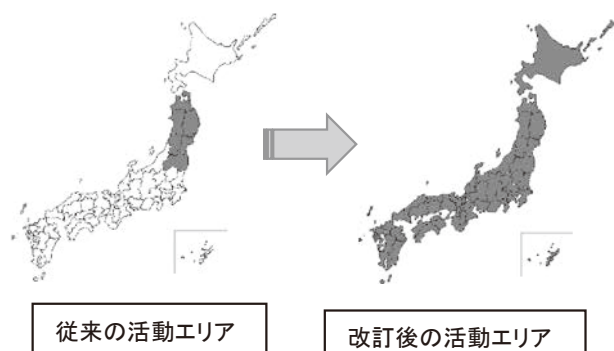


東北地方整備局との災害協定の改定について

国土交通省東北地方整備局長と一般社団法人日本建設機械施工協会東北支部長は、災害が発生、又は災害が発生するおそれがある場合における機械設備施設等の点検並びに故障時における応急復旧対応や、災害対策用機械等の運搬・設営・運用等に対応するため、「災害時における東北地方整備局所管施設（機械設備及び災害対策用機械）の災害応急対策業務に関する協定」を結び、災害に備えていました。

現行の災害協定は必ずしも管外派遣・自治体応援を想定していなかったため、大規模広域災害における円滑な自治体応援に向け、災害協定を見直し、応援の範囲を整備局管外・被災自治体応援まで拡大す

る協定の改定が、令和8年2月26日に行われました。



災害発生時、整備局から派遣要請があった際、会員会社へ当支部から打診し、出動していただく流れは従来通りです。

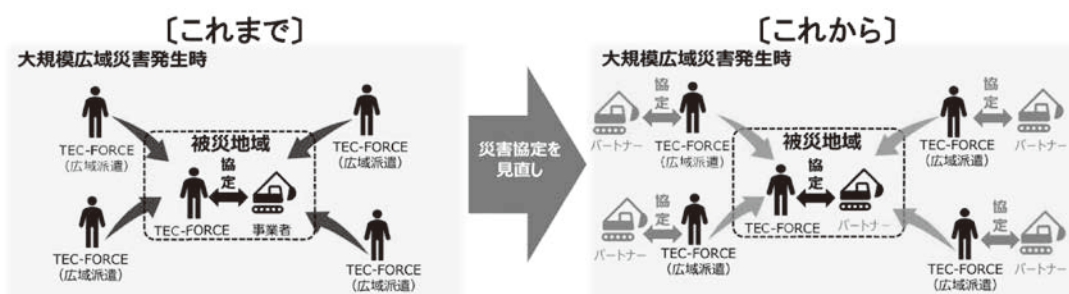
TEC-FORCEパートナー制度について

国土交通省から災害協定に基づく要請により活動する企業・団体等をTEC-FORCEパートナーと位置付け、広域的な被災自治体応援においてもTEC-FORCEと一体的な活動を展開してい

きます。

東北地方整備局との間で交わされた、災害協定に基づき活動するものは、TEC-FORCEパートナーとしての活動となります。

TEC-FORCE
Technical Emergency Control FORCE
PARTNER 国土交通省



災害協定の改定により、新たに発足したTEC-FORCEパートナー制度のお披露目として、令和8年3月16日に、東北地方整備局災害対策室において、団結式が執り行われました。

団結式は、先行的に災害協定の改定がされた、当支部を含む11団体の代表が出席し、TEC-FORCE パートナービブス受け渡しと決意表明が行われました。



TEC-FORCEパートナーの活動について



令和8年4月に発生した岩手県大槌町の大規模山火事において、東北地方整備局からの要請を受け、被災された方への支援のため、当支部からもTEC-FORCEパートナーとして活動しましたので、ご紹介いたします。

(株)ワイティ・クリエーション

日本ロード・メンテナンス(株) 仙台営業所



消火用水確保のため排水ポンプ車を設営



上水給水用の散水車運搬・現地での操作指導

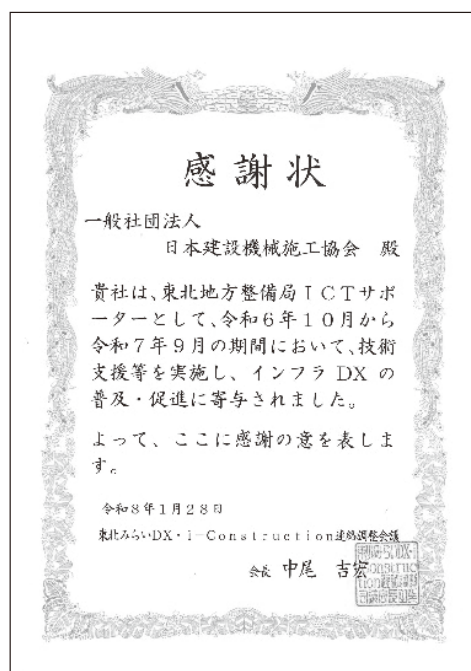
急な要請にかかわらず、対応して頂きありがとうございました。

国土交通省東北地方整備局より ICTサポーター感謝状をいただきました

当支部は令和8年1月28日(木)に国土交通省 東北地方整備局にて開催されました贈呈式にて、ICTサポーター感謝状をいただきました。

「ICTサポーター制度」は令和4年度から運用を開始しており、令和7年度末には100社（主に東北地域の企業）が認定され、ICT活用工事の更なる普及促進等に向けた活動を実施しております。

その中で、令和6年10月～令和7年9月の期間においては、当支部を含む53社が、ICT活用工事や3次元データの利活用促進等に係わる技術支援や講習会等の活動を実施し、感謝状をいただきました。



除雪機械展示・実演会 開催報告

広報部会 土肥 孝俊

(一社)日本建設機械施工協会では、「ゆきみらい2026 in大館」の一環で除雪機械展示・実演会を開催し、多数の方々にご来場いただきました。誠にありがとうございました。

この除雪機械展示・実演会は、昭和36年に青森で初めて開催されて以来、東北、北海道、北陸の3地域が交替で開催しているもので、本年は「ゆきみらい2026 in大館実行委員会」主催として、秋田県大館市で開催されました。その状況写真を中心に報告いたします。

令和8年の大館市は、1月中旬まで会場の除雪機械の実演に使用する雪山造成も、他所からの運搬を検討しなければならないほどの少雪でした。しかし、下旬に入ると大雪となり、開催期間中は鉄道や飛行機と言った公共交通機関が麻痺するほどの大雪で、開会式は雪の降りしきり中のセレモニーとなりました。

国土交通省、東北地方整備局、秋田県、大館市、出展各社をはじめ多数の方々からご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

1. 開催日時

令和8年1月29日(木)10:00～15:30
令和8年1月30日(金)10:00～15:00

2. 開催場所

秋田県大館市
ニプロハチ公ドーム駐車場 特設会場

3. 出展会社 16社 (五十音順)

飛鳥特装(株)
(株)岩崎
岩崎工業(株)
国土交通省 東北地方整備局 東北技術事務所
(株)タイショー
(株)太陽
中日本高速オートサービス(株)
名古屋電機工業(株)
新潟トランス(株)
西尾レントオール(株)
(株)N I C H I J O
日本キャタピラー (同)
(株)パトライト
範多機械(株)
板東自動車工業(株)
UDトラックス(株)

4. 来場者数

除雪機械展示・実演会 1,500名
(29日 730名、30日 770名)

5. 展示・実演会 会場配置図 (秋田県大館市 ニプロハチ公ドーム駐車場)



ブース配置図と出展会社名

6. 出展会社と展示機械類

	出展企業	出展機械・機材			台数	実演
		機種	形式	規格		
1	飛鳥特装(株)	BOSSスノープラウ H a k o マルチカー		スノープラウ スノープラウ / ロータリ	1 1	○

	出展企業	出展機械・機材			台数	実演
		機 種	形 式	規 格		
2	(株)タイショー	凍結防止剤散布機	ZM300L	300 L	1	
		凍結防止剤散布機	ZR-110	110 L	1	
		電動自走式散布機	ZQ-70		1	
3	阪東自動車工業(株)	SCANIA除雪車			1	
4	範多機械(株)	凍結防止剤散布車	MS-25BIT(D)		1	
		45°スプレーバ散水テスト機			1	
5	中日本高速オートサービス(株)	防災用EVバイク			2	○
6	名古屋電機工業(株)	小型車載標識(ヒーター付)		散光式警光灯付(ヒーター付)	1	
		防眩機能付LED点滅灯		スモールフリックス	4	
		高精細LED可搬式標識装置		散光式警光灯付(防眩機能付)	1	
7	(株)パトライト	LED散光式警光灯	ALE-Y		1	
		起伏式LED標識装置			1	
8	UDトラックス(株)	Quon除雪車	2DG-CZ5BL		1	
9	日本キャタピラー(同)	ホイールローダ	903	高速走行仕様	1	○
		コンパクトトラックローダー	265	遠隔仕様	1	
10	(株)太陽	融雪、消雪システム	TSRH		1	
11	新潟トランス(株)	ロータリ除雪車	NR304		1	○
12	(株)NICHIO	ロータリ除雪車	HTR308A	2.2m級	1	○
		小形除雪車	HTR88	1.3m級	1	
		凍結防止剤散布車	NDS25SS5	空港用 2.5m³級	1	
13	(株)岩崎	タイヤショベル対応3DMGシステム	VR500		1	
		Clear Drive 物体検知型映像鮮明化システム			1	
14	西尾レントオール(株)	電動コンパクトホイールローダ	L25		1	○
		除雪ドローン	UGV-F11N		1	
15	岩崎工業(株)	除雪トラック	10t 専用 6×6		1	
16	国土交通省 東北地方整備局 東北技術事務所	ICT除雪グレーダ			1	
		除雪グレーダシュミレーター			1	

7. 会場風景

[オープニングセレモニー]



(一社)日本建設機械施工協会 岩見執行理事 あいさつ



来賓によるテープカットセレモニー

⑥	④	②	①	③	⑤	⑦
① 国土交通省大臣官房参事官 (イノベーション) グループ 施工企画室室長 増 竜郎 様	④ 大館市理事	② 国土交通省東北地方整備局 企画部長 中尾 吉宏 様	① (一社)日本建設機械施工協会業務執行理事 岩見 吉輝	③ (一社)日本建設機械施工協会東北支部長 高橋 弘	⑤ 出展者代表範多機械(株)代表取締役 大月 隆 様	⑦ 日景 浩樹 様

[来場者の見学状況]



オープニングに集まった来場者



「除雪展示会 はじまるよ〜！」



出展者ブースを見学する来場者 その1



出展者ブースを見学する来場者 その2



出展者ブースを見学する来場者 その3



除雪車の前で「はいポーズ」

8. 除雪機械出展各社のブース



飛鳥特装(株)



(株)タイショー



板東自動車工業(株)



範多機械(株)



中日本高速オートサービス(株)



(株)名古屋電機工業



パトライト(株)



UDトラックス(株)



日本キャタピラー (同)



(株)太陽



新潟トランスス(株)



(株)NICHIO



(株)岩崎／(株)Hemitech



(株)西尾レントオール



岩崎工業(株)



東北技術事務所

9. 実演会の状況



飛鳥特装(株) Hakomulcher



中日本高速オートサービス(株) 防災用EVバイク



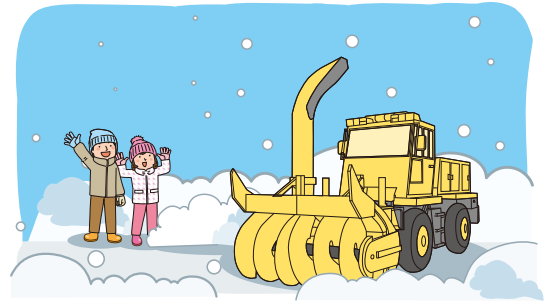
日本キャタピラー(同) 遠隔仕様コンパクトトラックローダー



(株)NICHIGO HTR308A



新潟トランスシス(株) NR304



10. 来賓の視察状況



出展者ブースを視察する増施工企画室室長



I C T除雪車を視察する中尾企画部長

11. おわりに

近年の冬期における気象状況は全国的に見れば暖冬少雪傾向となっていますが、いわゆる爆弾低気圧やJ P C Z（日本海寒帯気団収束帯）によってもたらされる大雪や暴風雪によって、局地的に大規模な車両滞留が発生するケースが多発しています。また、除雪に従事するオペレータの高齢化による人材不足、後継者の育成などの観点から、除雪・排雪に関するハード・ソフト技術の開発は一層重要となっています。

「ゆきみらい2026 in大館」の一環として開催され

た、「除雪機械展示・実演会」において最先端の技術や機械をご覧いただくことで、積雪地の道路交通を確保して生活環境を守るために除雪技術・除雪事業が果たしている役割をご理解いただければ幸甚と存じます。

最後に、最強寒波と言われた悪天候の中、見学にお越しいただいた皆様、また三年ぶりの東北管内での開催に向けて多大なご尽力を賜りました、国土交通省、東北地方整備局、秋田県、大館市、出展各社をはじめとした多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

阿武隈川上流遊水地水門ゲート設備工事概要 ～阿武隈川緊急治水対策プロジェクト～

東北地方整備局 福島河川国道事務所 施設管理課

1. 阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

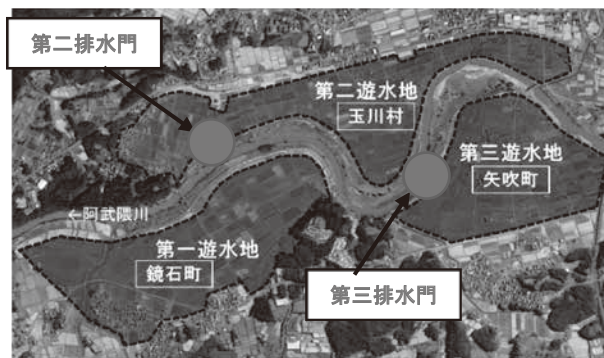
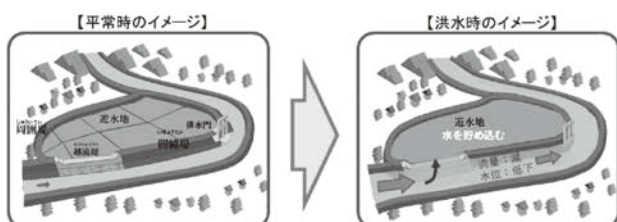
令和元年東日本台風に伴う洪水では、阿武隈川流域で戦後最大となる記録的な豪雨となり、多数の越水・堤防決壊等に加え、大規模な内水被害が発生するなど、流域全体で甚大な浸水被害となりました。これを受けて、阿武隈川流域における国、県、市町村が連携し、ハード・ソフトが一体となって防災・減災に取り組むことで浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指す「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」をとりまとめています。



2. 阿武隈川上流遊水地群の整備

現在、「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」の治水事業の一つとして、阿武隈川上流（鏡石町・矢吹町・玉川村）に新たな遊水地群を整備しています。

遊水地は、洪水時に川の水を一時的に貯め込み、遊水地区間と下流側の水位を下げることによって、浸水被害軽減する効果があり、地権者の皆様から貴重な土地を提供いただいた上で整備をしています。



3. 阿武隈川上流遊水地水門ゲート設備

第1～第3遊水地にそれぞれ排水門が計画されており、令和7年度に第2排水門及び第3排水門について工事契約となりました。当該水門は遊水地整備の進捗に伴い、既設の排水樋管の撤去を行う前に完成させ、排水路を切り替える必要があるため、全体事業工程にあわせて工事を行います。

設備の諸元は、表-1のとおりでいずれも二相ステンレス鋼製プレートガータ構造ローラゲートで、開閉方式はラック式開閉装置を採用しています。

1) 工事概要

①阿武隈川上流第二遊水地水門ゲート設備新設工事

工 期 令和8年2月～令和10年10月

②阿武隈川上流第三遊水地水門ゲート設備新設工事

工 期 令和8年4月～令和10年9月

工事施工範囲

扉体	1 門
戸当り	1 門分
開閉装置	1 門分
付属設備	1 式
操作制御設備	1 式
電源設備	1 式
二次コンクリート	1 式

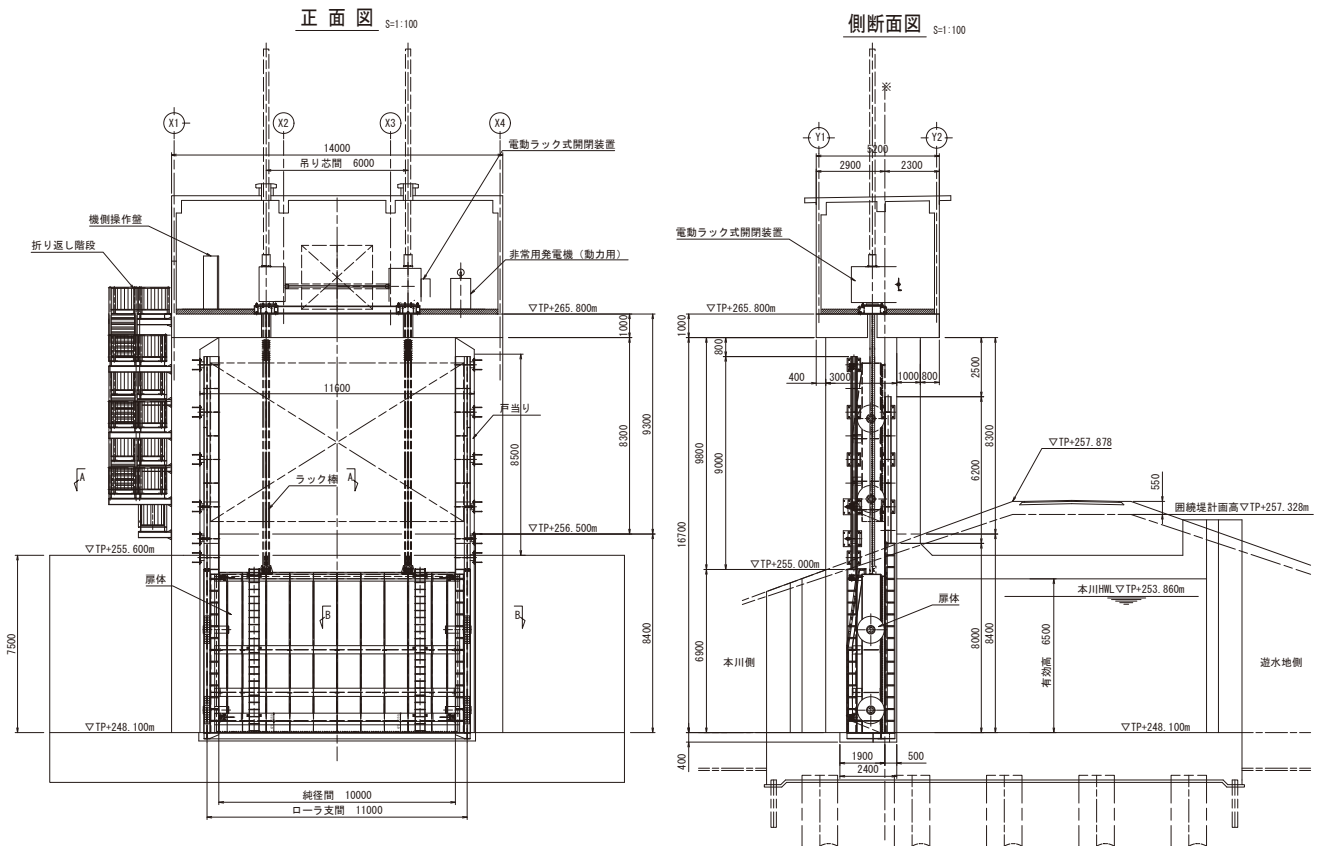
表－１ 主要諸元

	第２排水門	第３排水門
形 式	二相ステンレス鋼製プレートガーダ構造ローラゲート	
門 数	１ 門	
純径間	10.0m	9.0m
吞口高	6.5m	7.5m
水密方式	後面四方ゴム水密	
開閉方式	電動ラック式（連動）500K N	
揚 程	6.6m	7.6m
動力用非常用発電機	25K V A（運転時間２時間以上）	
制御用非常用発電機	5 K V A（運転時間72時間以上）	
敷高	T P + 248.100	T P + 248.500
設計水位（外水位／内水位）	ゲート敷高／遊水地計画高水位	
開操作水位（外水位／内水位）	ゲート敷高／越流天端高	
閉操作水位（外水位／内水位）	本川計画高水位／本川計画高水位－１m	

２）ゲート形式

ゲート形式として、「引き上げ式ローラゲート」のほか、構造によっては門柱高さの軽減が見込める二段式ローラゲート、門柱が不要となり景観的に優

れる「横転式ローラゲート」の３形式を比較して、水密性、維持管理性のほか、土木構造が最も小さくなる「引き上げ式ローラゲート」を選定しています。



図－１ 第二水門ゲート一般図

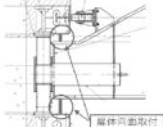
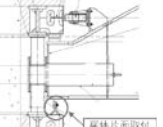
3) 扉体材質

扉体の材質は、扉体重量を軽減し開閉装置規格を小さくできることや将来の維持管理等を考慮し、ライフサイクルコストで優れた二相ステンレスを採用しました。

4) 水密ゴム形式

遊水地排水樋門は、遊水池内に流入した水を本川水位低下後も一時的に溜め込むため、川裏からの水密も出来る水密構造とする必要があります。そのため水密ゴムはY型を採用しています。

表－2 水密ゴム比較

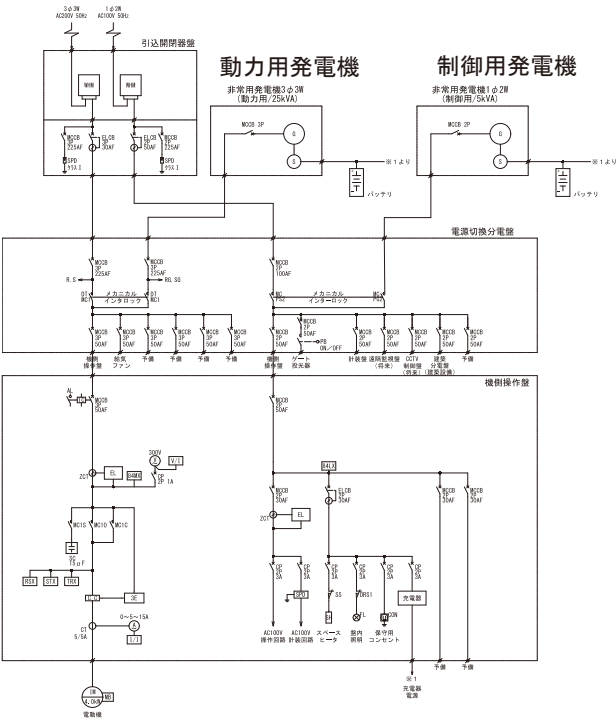
形 式	第1案 P形ゴム、L形ゴム	第2案 Y形ゴム		
扉体取付箇所				
構造	・水密ゴスを扉体の両面に取付ける。 ・扉体の両面に水密性線があり、構造が複雑となる。	△	・水密ゴスを扉体の片面のみに取付ける。 ・水密線は一般的な構造となる。	◎
水密性	・水密性に問題ない。	○	・水密性に問題ない。	○
維持管理性	・扉体の両面に取付けるため、ゴム取替えに、第2案より労力を要する。	△	・扉体の片面のみの取付けのため、第1案よりも労力を要しない。	◎
経済性	・水密ゴムの部品価格は安価であるが、水密ゴム、取付板や穴加工などの費用が両面分必要であり、第2案との経済性の差はない。 7000円/kg	○	・水密ゴムの部品価格は第1案より高価であるが、片面のみの費用となるため、経済性の差はない。 7400円/kg	○
総合評価	・扉体の両面に取付けるため、維持管理性は第2案よりも劣る。 ・経済性は第2案と同程度である。	○	・扉体の片面のみの取付けのため、維持管理性は第1案よりも有利である。 ・経済性は第1案と同程度である。	◎

5) 開閉装置

開閉装置は、ラック式、ワイヤーロープウィンチ式、チェーン式を比較検討し、規模は大きいものの構造も簡単で保守管理がしやすいこと、土木構造物（スラブ寸法）が小さく済み、土木施工費も抑えられることから、ラック式開閉装置を採用しました。

6) 電源系統

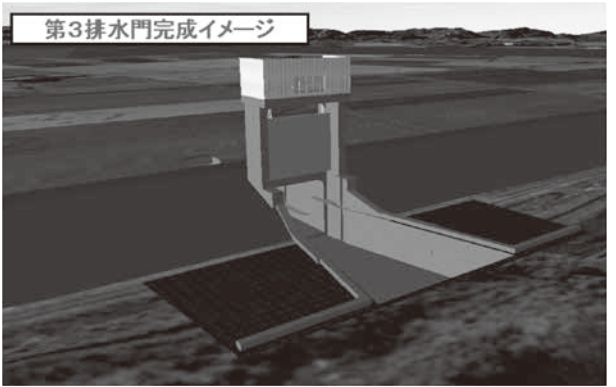
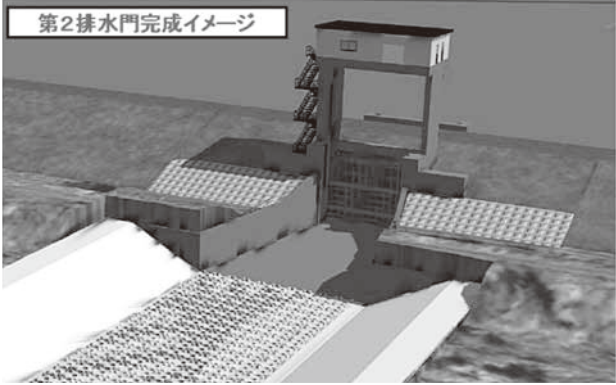
電源は商用電源に加えて非常用電源を有し、非常用発電機は動力用と制御用で構成。動力用はゲートの開閉操作時に手動で始動・停止（遠方操作可）することを想定し、制御用は停電時に自動で起動するものとして、燃料についてはそれぞれ動力用2時間、制御用72時間運転として計画しています。



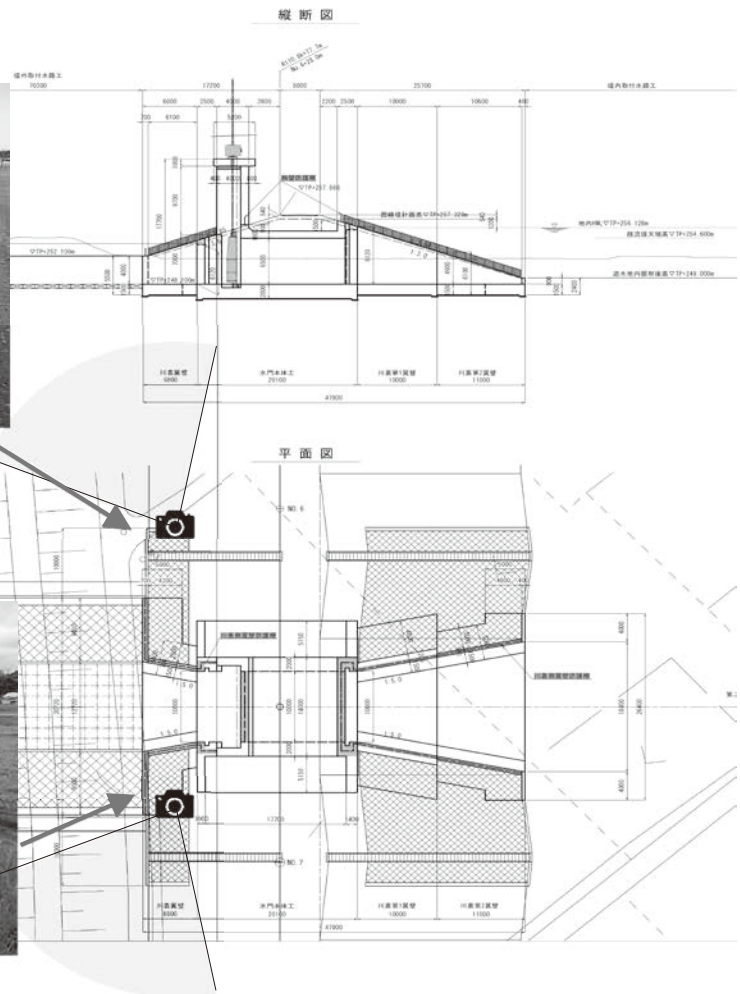
図－2 単線結線図

7) 施工計画

現地の施工は令和10年度に予定しており、現在、現地据付に向けた土木本体工の工程との調整、据付用クレーンの配置について鋭意調整中であり、施工計画に合わせた扉体分割方法の確認を進めているところです。



第2 水門施工場所状況写真



4. おわりに

第二水門ゲート設備工事及び第三水門ゲート設備工事は令和8年度に戸当りを製作、令和9年度に扉体、開閉装置、操作制御設備、非常用発電設備等の製作を行い、令和10年度中に現地据付を完了する予定です。現在は製作に向けて設計を進めながら、現地据付に向けた土木本体工事との調整打ち合わせを進めています。土木本体工事も着々と準備工として搬入路等の着手が進みつつあります。

本工事が「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」の一端を担い、早期の事業完成に寄与できるよう関係各所と調整を図りながら、無事故で完成できるように努めて参りたいと思います。

安全コーナー

労働安全衛生法及び 作業環境測定法改正について

建設部会 菅原 一将
(株式会社NIPPO)

1. 改正の概要

近年、日本では少子高齢化の進展や働き方の多様化により、従来の労働安全衛生管理では対応が難しい課題が増加しています。特に、一人親方などの個人事業者の増加や高齢労働者の増加、さらにメンタルヘルス不調の増加が顕著となっています。

従来の制度は企業に雇用される労働者を中心として構築されていましたが、実際の現場では下請企業や個人事業者など多様な作業者が混在しており、安全管理の対象から漏れるケースや責任の所在が曖昧になる問題がありました。

このような背景を踏まえ、「多様な人材が安心して働き続けられる職場環境の整備」を目的として、労働安全衛生法及び作業環境測定法の改正が行われました。

今回の改正の最大の特徴は、「労働者中心」の安全管理から、「作業に関わるすべての人」を対象とする安全管理へと転換された点にあります。すなわち、企業単位の安全管理から、現場全体の安全確保を重視する仕組みへと大きく変化しています。

2. 改正内容と企業に求められる取り組み

(1) 個人事業者等の安全衛生対策の強化

本改正において最も重要な点は、安全管理の対象

の拡大です。新たに「作業従事者」という概念が導入され、一人親方などの個人事業者も対象に含まれることとなりました。これにより、元請事業者は自社や下請企業の労働者に加え、現場に関わるすべての作業者に対して安全確保を行う責任を負うことになります。

また、個人事業者自身にも、安全教育の受講や機械の点検、安全な作業の実施などの義務が課されました。さらに、個人事業者の災害についても報告制度が適用されることとなり、事故把握と再発防止が強化されています。

企業に求められる取り組みとしては、まず全ての作業従事者を把握し、名簿として管理することが重要です。そのうえで、入場時教育や安全教育を確実に実施し、個人事業者も含めて同一の安全ルールを適用する必要があります。また、元請事業者が主体となり、作業間の連絡調整や危険情報の共有を行う統括安全管理体制を確立することが求められます。

(2) メンタルヘルス対策の強化

ストレスチェック制度については、従来努力義務であった50人未満の事業場にも義務化が拡大されました。企業はストレスチェックを実施するだけでなく、高ストレス者への医師面接の実施や、結果を活

区分	改正項目	主な内容	施行時期
① 個人事業者対策	元方責任の拡大 注文者の配慮義務 災害報告制度 個人事業者の義務	一人親方等も安全管理対象に含む 工期・施工条件に配慮義務 個人事業者の事故も報告対象 教育・点検等を義務化	2026年4月 2025年公布（施行済） 2027年予定 2027年4月
② メンタルヘルス	ストレスチェック義務化	全事業場に拡大	公布後3年以内
③ 化学物質対策	SDS罰則・再通知 個人ばく露測定	情報提供義務の強化 有資格者による測定義務	公布後5年以内 2026年10月
④ 機械安全	検査制度見直し 不正防止強化	民間検査機関の活用 技能講習の不正防止	2026年4月 2026年1月
⑤ 高齢者対策	労災防止措置	作業環境改善（努力義務）	2026年4月
⑥ 両立支援	治療と仕事の両立	配置・時間配慮（努力義務）	2026年4月

用した職場環境改善まで行う必要があります。

この改正により、メンタルヘルス対策は単なる調査ではなく、職場環境の改善につなげることが求められる実務的な取り組みへと位置付けられました。

企業に求められる取り組みとしては、ストレスチェックの実施体制を整備するだけでなく、結果を分析し、業務内容や人員配置の見直しなど具体的な改善につなげることが重要です。また、管理職への教育を通じて、日常的にメンタルヘルス不調を早期に把握できる体制を構築することも必要です。

(3) 化学物質による健康障害防止対策

化学物質管理では、安全データシート（SDS）の制度が強化され、通知義務違反に対する罰則が新設されました。また、SDSの内容に変更があった場合には再通知が義務付けられ、常に最新の情報を共有する必要があります。

さらに、化学物質の危険性・有害性についてリスクアセスメントを実施し、その結果に基づいてばく露低減措置を講じることが求められます。加えて、個人ばく露測定についても有資格者による実施が必要となり、管理の精度が高められています。

企業に求められる取り組みとしては、SDSを単に保管するのではなく、作業者が容易に確認できる状態にし、内容を理解させることが重要です。また、リスクアセスメントの結果を作業手順や安全対策に反映させ、換気設備の改善や保護具の使用徹底につなげる必要があります。

(4) 機械等による労働災害防止制度の見直し

特定機械に関する検査制度については、登録を受けた民間機関による検査が可能となり、制度の効率化が図られました。一方で、検査の適正な実施や品質の確保がより重要となっています。

また、技能講習の不正防止対策が強化され、資格制度の信頼性向上が図られています。

企業に求められる取り組みとしては、機械の点検や検査を確実に実施し、その結果を記録として管理する体制を整備することが必要です。また、作業者の資格についても事前に確認し、期限切れや不正取得を防止することが求められます。日常点検につい

ても形式的なものとせず、実効性のある運用を行うことが重要です。

(5) 高年齢労働者の労働災害防止

高年齢労働者は身体機能の低下により労働災害のリスクが高まるため、事業者には作業環境の改善や作業方法の見直しなどが努力義務として求められています。

企業に求められる取り組みとしては、高齢者の特性に配慮し、作業負担の軽減を図ることが重要です。具体的には、機械化や補助具の導入による作業の軽減、作業時間の調整、適切な配置転換などが必要です。また、高齢者向けの安全教育を実施し、事故防止に努めることが求められます。

(6) 治療と仕事の両立支援

疾病を抱える労働者が働き続けられるよう、配置転換や労働時間の調整などの配慮を行うことが求められています。

企業に求められる取り組みとしては、両立支援に関する社内制度を整備し、従業員が安心して相談できる体制を構築することが重要です。具体的には、相談窓口の設置や対応手順の明確化を行い、個々の状況に応じた柔軟な対応を可能とする必要があります。

3. まとめ

今回の労働安全衛生法及び作業環境測定法の改正は、「労働者中心」の管理から「作業に関わるすべての人」を対象とする安全管理へと大きく転換するものです。

特に、個人事業者の取り込みや元請責任の強化は、現場の安全管理のあり方に大きな影響を与える重要なポイントです。

企業は、作業従事者の一元管理や統括安全管理体制の構築、教育や記録の徹底などを通じて、実効性のある安全対策を推進する必要があります。

今後は、「安全は全員で守る」という意識を共有しながら、現場全体で安全確保に取り組み、持続可能な労働環境の実現を目指していくことが重要です。

改正安衛法等に係る特設ページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/anzen/an-eihou/index_00001.html



安全衛生政策全般の紹介

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/anzen/index.html



支部行事

総会・運営委員会

■令和8年 1月合同部会

月 日：令和8年1月19日(月)

場 所：仙台市 仙台サンプラザ

出席者：山尾昭 企画部会長 ほか40名

議題：①各部会 令和8年度事業計画打合せ

②合同部会

②-1 各部会報告

②-2 令和8年度事業計画概要について（事務局より）

■令和7年度 第3回 支部運営委員会

月 日：令和8年3月16日(月)

場 所：仙台市 仙台サンプラザ

出席者：高橋弘 支部長 ほか33名

議題：①令和8年度事業計画(案)について

②令和8年度事業予算(案)について

③令和8年度表彰候補者(案)について

④その他

■令和7年度 支部監査

月 日：令和8年4月23日(木)

場 所：東北支部会議室

出席者：浅野博之 支部監査役 ほか1名

議題：令和7年度の事業及び決算の監査全般

■令和8年度 第1回 支部運営委員会

月 日：令和8年5月18日(月)

場 所：仙台市 パレスへいあん

出席者：高橋弘 支部長 ほか31名

内容：①令和7年度 事業報告(案)について

②令和7年度 事業決算(案)について

③令和8・9年度 役員の改選について

■令和8年度 第15回 東北支部通常総会

月 日：令和8年5月25日(月)

場 所：仙台市 パレスへいあん

出席者：支部会員：147社（議決権総数165社のうち出席73社、委任状74社）

内容：①令和7年度 事業報告について

②令和7年度 事業決算について

③令和8・9年度 役員の改選について

④令和8年度 事業計画について

⑤令和8年度 事業予算について

⑥表彰（本部長感謝状の贈呈ほか）

⑦特別講演「災害が人類史をつくってきた」

講師 宮城県慶長使節船ミュージアム
サン・ファン館館長
東北大学名誉教授

平川 新 氏

企画部会

■令和7年度 第3回 企画部会

議題：令和8年3月9日(月)

出席者：山尾昭 企画部会長 ほか8名

議題：①令和8年度事業計画(案)について

②令和8年度事業予算(案)について

③令和8年度表彰候補者(案)について

④その他

■令和8年度 第1回 企画部会

月 日：令和8年5月11日(月)

場 所：東北支部 事務局会議室

出席者：山尾昭 企画部会長 ほか6名

議題：第1回支部運営委員会について

内容：①令和7年度 事業報告(案)について

②令和7年度 事業決算(案)について

③令和8・9年度 役員の改選について

広報部会

■令和8年度 第1回 広報部会

月 日：令和8年4月8日(水)

出席者：浅野公隆 広報部会長 ほか7名

議題：①「支部たより191号」の編集計画について

②原稿執筆依頼について

③表紙写真について

④本部機関誌「建設機械施工」令和8年10月号ずいそう原稿執筆者について

⑤その他

■E E東北'26 第2回実行委員会作業部会

(Web会議)

月 日：令和8年4月16日(木)

出席者：都鳥健一 東北技術事務所 副所長
ほか17名

内容：①E E東北'26 開催概要

②E E東北'26 実施方針(案)

③E E東北'26 予算(修正案)

④今後の予定

■E E 東北'26 第2回実行委員会
(対面+Web会議)

月 日：令和8年4月23日(木)
場 所：仙台市 ハーネル仙台
出席者：中尾吉宏 東北地方整備局 企画部長
ほか18名+Web参加10名
内 容：①E E 東北'26 開催概要
②E E 東北'26 実施方針(案)
③E E 東北'26 予算(修正案)
④今後の予定

■E E 東北'26

月 日：令和8年6月3日(水)～4日(木)
場 所：仙台市 夢メッセみやぎ
来場者：16,700人
内 容：出展者：386社、出展技術：966技術、
新技術プレゼンテーション：54題

技術部会

■令和7年度 東北地方整備局との
機械設備関係意見交換会

月 日：令和7年12月12日(金)
場 所：仙台市 フォレスト仙台
第1フォレストホール
出席者：技術部会12社 21名
内 容：①東北地方整備局からの情報提供
②機械設備に関する意見交換

■第4回 東北道路啓開計画協議会
ワーキンググループ

月 日：令和8年3月10日(火) Web併用
出席者：松本章 東北地方整備局道路部 道路情
報管理官ほか
内 容：①道路啓開計画(地震・津波編)
本編・概要版
②その他

■TEC-FORCE パートナー団結式

月 日：令和8年3月16日(月)
場 所：東北地方整備局12階災害対策室
出席者：西村拓 東北地方整備局 局長 ほか
高橋弘 支部長 ほか10団体の代表者
内 容：①東北地方整備局局長あいさつ
②TEC-FORCEパートナービ
ス受け渡し
③決意表明

■東北道路啓開計画等協議会 第4回委員会

月 日：令和8年3月18日(水)

場 所：東北地方整備局12階災害対策室
(Web併用)

出席者：井上圭介 東北地方整備局 道路部長
ほか
内 容：①道路啓開計画(地震・津波編)(案)
について
②道路啓開計画(地震・津波編)概要
版について
③今後の進め方

■令和8年度 最上川下流・赤川総合水防演習

月 日：令和8年5月31日(日)
場 所：山形県酒田市下瀬地先
(最上川「出羽大橋」下流右岸河川敷)
参加者：約1,200名
支部からの参加者：高橋弘 支部長
福田智之 技術部会長
内 容：①水防工法訓練
②総合防災訓練
③防災展

■東北道路啓開計画等協議会(雪害編)第1回委員会

月 日：令和8年6月9日(火)
場 所：東北地方整備局12階災害対策室
(Web併用)
出席者：井上圭介 東北地方整備局 道路部長ほか
内 容：①東北道路啓開協議会規約改正につ
いて
②道路啓開計画策定に係る経緯及び今
後の予定について

施工部会

■ゆきみらい2026 in大館
除雪機械展示・実演会出展者会議

月 日：令和7年12月4日(木)
場 所：秋田県大館市 タクミアリーナ会議室
出席者：小櫃基住 本部 企画部長 ほか4名
出展者16社 24名
議 題：①「ゆきみらい2026 in大館」基本計
画について
②除雪機械展示・実演会実施計画(案)
について
③除雪機械展示・実演会実施体制(案)
について
④各出展者の展示スペース確認等

■ゆきみらい2026 in大館ー除雪機械展示・実演会

月 日：令和8年1月29日(木)～30日(金)
会 場：ニプロハチ公ドーム 駐車場

事務局：高橋弘 支部長 ほか11名
来場者数：1,500人

■令和7年度 建設機械施工技能実習評価試験

・1月宮城定期試験

月 日：令和8年1月15日(木)～16日(金)
場 所：CAT宮城教習センター
受 験 者：学科63名 実技85名（掘削、積込み、
締固め）

・3月宮城定期試験

月 日：令和8年3月12日(木)～13日(金)
場 所：CAT宮城教習センター
受 験 者：学科80名 実技85名（掘削、積込み、
締固め）

■令和8年度 建設機械施工技能実習評価試験

・5月宮城定期試験

月 日：令和8年5月20日(水)～22日(金)
場 所：CAT宮城教習センター
受 験 者：学科91名 実技121名（押土・整地、
積込み、締固め、掘削）

■橋梁架設・大口径岩盤削孔の施工技術と積算、 及び建設機械等損料講習会

月 日：令和8年6月16日(火)
場 所：仙台市 フォレスト仙台
受 講 者：38名
内 容：①大口径岩盤削孔の施工技術と積算
②建設機械等損料の積算
③鋼橋架設の施工技術と積算
④PC橋架設の施工技術と積算

■令和8年度 建設機械施工管理技術検定試験

月 日：令和8年6月21日(日)
場 所：1級 仙台市
東北学院大学土樋キャンパス
2級 滝沢市 岩手産業文化センター
受 検 者：1級 第一次検定 310名
第二次検定（筆記） 89名
2級 第一次検定 共通 501名
第1種 57名、第2種 423名
第3種 25名、第4種 65名
第5種 14名、第6種 1名
第二次検定 290名

■令和8年度 除雪講習委員会

月 日：令和8年6月24日(水)
場 所：東北地方整備局 DXルーム
出 席 者：小笠原清 東北地方整備局 道路情報管
理官 ほか7名

内 容：令和8年度除雪講習会実施計画について説明し了承を得た

建設部会

■令和8年度 第1回 建設部会

月 日：令和8年4月16日(木)
参 加 者：徳永寿教 建設部会長 ほか8名
内 容：①令和8年度特殊現場見学会について
②次回の建設部会について
③その他

建設ICT・DX推進委員会

■令和7年度 情報化施工技術委員会 幹事会

月 日：令和7年12月22日(月)
場 所：太陽生命仙台本町ビル 6階会議室
出 席 者：鈴木勇治 情報化施工技術委員会 委員長
ほか7名
内 容：①組織体制の見直し(案)について
②情報化施工技術委員会開催日程について

■令和7年度 情報化施工技術委員会

月 日：令和8年1月14日(水)
場 所：仙台市 ハーネル仙台
出 席 者：鈴木勇治 委員長 ほか40名
内 容：①組織体制の見直し(案)について
②情報化施工技術委員会開催日程について

■令和7年度 ICTサポーター感謝状贈呈式

月 日：令和8年1月28日(水)
場 所：仙台合同庁舎B棟 2階
第5・6共用会議室
受 賞 者：(一社)日本建設機械施工協会東北支部
ほか52社

■令和7年度 東北土木技術人材育成協議会幹事会 (Web)

月 日：令和8年1月28日(水)
出 席 者：松浦孝昌 東北地方整備局 東北技術事
務所 事務所長 ほか26名
議 題：①令和7年度 基礎技術講習会の結果
・実施状況
・受講者アンケート結果
・各団体からの意見について
②令和8年度 基礎技術講習会に向けて
・次年度に向けた議論のポイント
・次年度の方針及び予定(案)

■令和7年度 東北土木技術人材育成協議会
(対面+Web)

月 日：令和8年2月25日(火)
出席者：中尾吉宏 東北地方整備局 企画部長
ほか38名
議題：①令和7年度の活動報告
②令和8年度の活動方針(案)
③その他

■令和8年度 東北土木技術人材育成協議会
第1回ワーキング (Web)

月 日：令和8年4月22日(水)
出席者：松芳健一 東北技術事務所 総括技術情報管理官 ほか
議題：①基礎技術講習会(土木)実施計画について
②基礎技術講習会(ICT・UAV)実施計画について
③基礎技術講習会(インフラDX)【各県開催】の実施計画について
④意見交換

■第1回 建設ICT・DX推進委員会

月 日：令和8年4月9日(木)
場所：仙台市 ハーネル仙台
出席者：鈴木勇治 建設ICT・DX推進委員長
ほか37名
内容：①新規会員について
②令和7年度活動報告について
③委員会構成について
④令和8年度WGにおける作業内容について
⑤令和8年度の活動計画について
⑥ICT東北推進協議会について
ほか

■第1回 建設ICT・DX推進委員会幹事会

月 日：令和8年5月12日(火)
場所：東北支部 6階会議室
出席者：鈴木勇治 委員長 ほか15名
議題：建設ICT・DX活用セミナー
(6県セミナー)について
内容：セミナーの内容、担当説明者等について

■建デジEXPO in AOMORI 2026 出展者会議
(対面+Web)

月 日：令和8年5月15日(金)
場所：東北支部 事務局会議室
出席者：鈴木勇治 委員長 ほか28名
議題：青森見本市「建デジEXPO in AO

MORI 2026」について

内容：開催概要、出展ブース設備、出展技術等について

■東北地方整備局「インフラDX」研修

① 第Ⅲ期
月 日：令和7年12月11日(木)
場所：東北技術事務所 研修棟
受講者：13名

② 第Ⅳ期
月 日：令和8年1月22日(木)
場所：東北技術事務所 研修棟
受講者：11名

■建設ICT総合研修(福島開催)

月 日：令和8年5月20日(水)～22日(金)
場所：福島県あずま総合運動場
講師：ICT東北推進協議会 講師
内容：座学：ICT活用工事概論、UAV空中写真測量、画像・点群処理ほか
実習：UAV空中写真測量、計測実習
ほか
受講者：福島県内の建設業者 5名

■建設ICT総合研修

内容：座学：ICT活用工事概論、UAV空中写真測量、画像・点群処理ほか
実習：UAV空中写真測量、計測実習
ほか

①第1回

月 日：令和8年5月27日(水)～29日(金)
場所：秋田県五城目町
地域活性化支援センター
講師：ICT東北推進協議会 講師
受講者：秋田県内の建設業者 10名

②第2回

月 日：令和8年6月9日(火)～11日(木)
場所：秋田県五城目町
地域活性化支援センター
講師：ICT東北推進協議会 講師
受講者：秋田県内の建設業者 10名

■令和8年度 基礎技術講習会(インフラDX)
(主催：東北土木技術人材育成協議会)

①1回目

月 日：令和8年6月11日(木)
場所：東北技術事務所 研修棟
受講者：18名

②2回目

月 日：令和8年6月23日(火)

場 所：東北技術事務所 研修棟
受 講 者：20名

会 員 情 報

新入会員

○株式会社加藤建設 東北支店 (2026年4月1日)
東北支店 技術営業部長 渡部 仁
〒981-1251 宮城県名取市愛島台5-101-52
T E L 022-346-1878 F A X 022-279-0078

○株式会社パトライト (2026年4月1日)
特販営業課 課長 坪田 文彦
〒141-0032 東京都品川区大崎1-6-1
T O C 大崎ビルディング17階
T E L 03-6682-8866 F A X 03-6856-7667

○株式会社柏崎組 (2026年4月1日)
代表取締役社長 柏崎 尚久
〒039-2135 青森県上北郡おいらせ町立蛇71
T E L 0178-50-6511 F A X 0178-50-6510

○会津土建株式会社 (2026年4月1日)
代表取締役社長 菅家 忠洋
〒965-0873 福島県会津若松市追手町5-36
T E L 0242-26-4500 F A X 0242-29-5911

○株式会社クリエイター (2026年7月1日)
代表取締役社長 伊藤 雅宏
〒070-0014 北海道旭川市新星町5-1-13
T E L 0166-21-3300 F A X 0166-21-3322

○株式会社会津電気工事 (2026年7月1日)
代表取締役 佐藤 脩一
〒965-0841 福島県会津若松市門田町
大字日吉字小金井38-3
T E L 0242-27-1460 F A X 0242-27-1362

代表者変更

○ショーボンド建設株式会社 北日本支社
(2025年10月1日)

支社長 高橋 健
(旧 支社長 米野 泰広)

○ライカジオシステムズ株式会社 (2025年12月1日)
代表取締役 桑野 裕士
(旧 代表取締役 城戸 良行)

○株式会社アクティオ 東北支社 (2026年1月1日)
執行役員支社長 武川 大介
(旧 執行役員支社長 戸澤 正治)

○株式会社カナモト (2026年2月9日)
東北地区統括部長 渡部 純
(旧 東北地区統括部長 伊藤 徹)

○P i x 4 D 株式会社 (2026年2月14日)
C E O アンドレイ・クレイメノフ
(旧 C E O クリストフ・ストレハ)
(住所変更)
〒150-0011 東京都渋谷区東1-3-10
いちご渋谷イーストビル5階
T E L 070-8359-4685 F A X なし

○株式会社建設システム 仙台営業所
(2026年3月27日)
営業所長 菅原 博文
(旧 営業所長 西城 忍)
(住所変更)
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院
1-1-15 仙台花京院テラス3階

○清水建設株式会社 東北支店 (2026年4月1日)
執行役員東北支店長 竹中 康博
(旧 常務執行役員支店長 大橋 成基)

○株式会社丸島アクアシステム東北支店
(2026年4月1日)
支店長 平澤 基治
(旧 支店長 藤田 裕明)

○青木あすなろ建設株式会社 東北支店
(2026年4月1日)
支店長 松本 茂
(旧 支店長 伊原 健雄)

○株式会社西島製作所 仙台支店 (2026年4月1日)
支店長 朝比奈 尚
(旧 支店長 中安 久志)

○北日本機械株式会社 (2026年4月1日)
代表取締役社長 坂本 知英
(旧 代表取締役社長 岡田 泰三)

○株式会社日立インダストリアルプロダクツ
北部支店（2026年4月1日）
支店長 金井 龍也
（旧 支店長 佐藤 健）

○東亜道路工業株式会社 東北支社
（2026年4月1日）
執行役員支社長 前原 泰明
（旧 執行役員支社長 中野 誠）

○株式会社荏原製作所 東北支社（2026年4月1日）
支社長 藤澤 稔
（旧 支社長 上野 修）

○前澤工業株式会社 東北支店（2026年4月1日）
支店長 井出 匡人
（旧 支店長 清水 竜一）

○コマツ岩手株式会社（2026年4月1日）
代表取締役 金子 文嘉
（旧 代表取締役 益田 泰緒）

○株式会社新庄碎石工業所（2026年4月1日）
代表取締役 柿崎 赳
（旧 取締役 管理部長 柿崎 赳）

○ユナイテ株式会社 仙台営業所（2026年4月1日）
東北地区統括部長 高野 裕一
（旧 東北地区統括部長 山内 智裕）

○東北化工建設株式会社（2026年4月8日）
代表取締役 尾々野 栄治
（旧 代表取締役 須藤 進）

○株式会社テクアノーツ（2026年6月1日）
関東事業所長 谷岡 哲次
（旧 施工本部長 河野 芳成）

○東北グレーダー株式会社（2026年6月15日）
代表取締役 武藤 信二
（旧 代表取締役 石井 浩一）

○コマツ山形株式会社（2026年6月23日）
代表取締役 佐藤 拓真
（旧 代表取締役 渡部 良彦）

○コマツ秋田株式会社（2026年7月1日）
代表取締役社長 渡邊 裕樹
（旧 代表取締役社長 田川 浩一）

名称変更

○株式会社BREXA PCT（2026年1月1日）
（旧 株式会社PCT）

○株式会社IHIインフラスクエア 東北支店
（2026年4月1日）
（旧 株式会社IHIインフラシステム東北支店）

住所変更

○~~株~~狩川佐藤組（2025年12月15日）
〒999-6601 山形県東田川郡庄内町狩川
字内北割58-1

○スバル興業株式会社（2026年6月22日）
〒984-0013 宮城県仙台市若林区
六丁の目南町9-3

退会

○山水電機工業株式会社（2026年3月31日）

○奥村組土木興業株式会社 仙台営業所
（2026年3月31日）

○上北建設株式会社（2026年3月31日）

○宮城建設工業株式会社（2026年3月31日）

○山形建設株式会社（2026年3月31日）

○EARTH CREATE株式会社（2026年6月30日）

支部たより 191号

令和8年7月24日発行
発行（一社）日本建設機械施工協会東北支部
〒980-0014 仙台市青葉区本町3-4-18 太陽生命仙台北町ビル5F
TEL 022-222-3915 FAX 022-222-3583
ホームページアドレス <https://www.jcmatohoku.com/>
メールアドレス jcma-futukamati@mbr.nifty.com

令和8年度 除雪講習会開催のご案内

番号	地区	講習会場		開催月日
1	青森(1)	青森産業会館	青森市第二問屋町 4－4－1	9月15日(火)
2	青森(2)	青森産業会館	青森市第二問屋町 4－4－1	9月16日(水)
3	弘前	弘前文化センター	弘前市大字下白銀町19－4	9月17日(木)
4	会津(1)	会津アピオスペース	会津若松市インター西90	9月29日(火)
5	会津(2)	会津アピオスペース	会津若松市インター西90	9月30日(水)
6	山形(1)	山形市ビッグウイング	山形市平久保100番地	10月6日(火)
7	山形(2)	山形市ビッグウイング	山形市平久保100番地	10月7日(水)
8	新庄(1)	新庄市民文化会館	新庄市堀端町 4－67	10月8日(木)
9	新庄(2)	新庄市民文化会館	新庄市堀端町 4－67	10月9日(金)
10	横手(1)	秋田ふるさと村	横手市赤坂字富ヶ沢62－46	10月13日(火)
11	横手(2)	秋田ふるさと村	横手市赤坂字富ヶ沢62－46	10月14日(水)
12	秋田	秋田テルサ	秋田市御所野地蔵田 3－1－1	10月15日(木)
13	岩手(1)	岩手産業文化センター	岩手県滝沢市砂込389－20	10月20日(火)
14	岩手(2)	岩手産業文化センター	岩手県滝沢市砂込389－20	10月21日(水)
15	奥州(1)	奥州市文化会館	奥州市水沢佐倉河字石橋41	10月22日(木)
16	奥州(2)	奥州市文化会館	奥州市水沢佐倉河字石橋41	10月23日(金)
17	宮古	宮古市陸中ビル	宮古市宮町 1－3－5	10月28日(水)
18	仙台(1)	フォレスト仙台	仙台市青葉区柏木 1－2－45	11月4日(水)
19	仙台(2)	フォレスト仙台	仙台市青葉区柏木 1－2－45	11月5日(木)
計 11会場 (19回開催)				

受講料は会員価格あり、会場によっては定員に達する場合があります。

編集後記

7月に入り、本格的な夏を迎えます。今年は気象庁が日最高気温40℃以上の日を新たに「酷暑日」と位置付けるなど、暑さへの備えの重要性が一層意識されるようになっていきます。また、エルニーニョ現象の発生も報告されており、平年より気温が高くなる可能性も指摘されていることから、今後の気象動向にも引き続き注意が必要です。

暑さが苦手な自分としては、これからの時期を思うと少し身構えてしまいますが、建設現場においてはその影響はなおさら大きいものと感じます。

特に猛暑の中での作業は厳しく、体調管理や作業環境への配慮の重要性を改めて感じるところです。

このような状況の中で、国土交通省では「建設工事における猛暑対策サポートパッケージ」を取りまとめ、暑熱環境下での安全確保や作業効率の向上に向けた取組が進められています。

現場においても、こうした考え方を踏まえながら工夫を重ねていくことが、これまで以上に重要になってくるのではないのでしょうか。暑さの厳しい時期が続きますが、皆様におかれましては体調には十分ご留意いただき、引き続きご安全にお過ごしください。

最後に、本誌191号の発刊にあたり、執筆を担当していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

会員の皆様には、今後ともJCMA東北支部の活動へのご協力をお願い申し上げます。

(広報部会委員 中村 和史

東日本高速道路(株)東北支社)